

01 WG ワーキンググループ情報
 ●各ワーキンググループの活動状況&予定
 (WG=ワーキンググループ)

●太陽光 WG
 2014年度の活動として、①「松本地域の太陽光発電量の調査と公開」②「実際の太陽光発電量とシミュレーション値との比較による太陽光発電システムに異常がないかの診断」を検討しています。これから太陽光発電を導入したい人や、すでに導入されている人に対して役立つことをしていきたいと考えています。ブログもご覧ください。

●MOKUBAの会 (木質バイオマス WG)
 「恵まれた森林資源を有効に活用して、循環型の社会を築いていきたい」という思いから集まったメンバー。2013年は電気に頼らない、災害時にも活躍しそうな「発電屋台」を制作。2014年度も木質バイオマスの普及のためのアイテムを検討しています。ブログもご覧ください。

●賦存量 WG
 松本地域(3市5村)の自然エネルギーの賦存量と推定利用可能量についての算定を利用した学習会を予定しています。

●地中熱 WG【地恵の水】
 地下水利用実証事業の現地見学会を実施(右記)。地下水の熱利用が有効であることを実感。

●学習会 WG
 月1回のペースで開催している「学習会」は、地球環境問題から各種自然エネルギーまで、テーマを幅広く取り上げています。会員以外にもオープンですので、どなたでも自由に参加できます。みなさんにお知らせしたいことや知識お持ちの方、ぜひ勉強会で発表してください。講師募集中です。※内面トピックスもご覧ください。

●ネットワークづくり WG
 2月にロケットストーブづくりワークショップを開催(内面掲載)。2014年度は、メンバーが自慢のモノや思いを持ち寄りして自慢しあったり、語りあったりする場と、専門家をお呼びして真面目にしっかりと学習し、自分の思いを理論やデータで裏付ける場を作る予定です。

●広報チーム
 ホームページの更新、イベントの広報活動支援、情報通信 action の制作をしています。参加者募集中です。

★新しい情報はホームページやフェイスブック、WGのブログをご覧ください。ブログバナーはホームページトップに。

 スマホでアクセス!

私たちとじっくり「考え」「学び」そして「行動」しませんか。会員募集中です

現在、会員数は70人。個人登録制です。自然エネルギー関連の事業をされている方もいらっしゃいますが、多くの方は一般の市民の方々です。松本地域をはじめ、伊那、長野、諏訪からも参加されています。

入会の方法 ●年会費 2,000円 (入会金はありません)

- ① ホームページの入会申込書 (Word) を入手ください。
- ② 必要事項を入力(記入)後①電子メールで送付、または②プリントアウトしてFAXにて送付、あわせて指定口座に会費を入金してください。
- ③ 入会後は、メールで情報をお届けします。各種会議・イベント・学習会へ自由に参加いただけます。

02 Event 2013年度後半 イベントダイジェスト

●市民活動フェスタ 2013・ぼくらの学校に出展

2013年9月28日(土)・29日(日)、松本市・あがたの森文化会館で開かれた「市民活動フェスタ 2013・ぼくらの学校」に出展。
 ◎MOKUBAの会製作「発電屋台」の完成をお披露目・実演展示(屋外)
 ◎屋内ブースでは、「発電エアロバイク」体験とパネル展示
 ◎「ぼくらが作るエネルギー」というテーマの45分間の授業担当(詳しくはホームページのレポートをご覧ください)



●安曇野環境フェア 2013に出展

2013年10月12日(土)・13日(日)、安曇野市・堀金総合体育館で開催された「安曇野環境フェア 2013」に出展。体育館内ブースではパネル展示、発電体験をはじめ、ロケットストーブを展示。屋外では、MOKUBAの会製作「発電屋台」も展示。手作りのロケットストーブや小型ウッドガスストーブを実演し、多くの来場者のみなさんの注目をあびました。(詳しくはホームページのレポートをご覧ください)



●「地中熱利用とウッドボイラーの実証モデル」の見学&意見交換会

地恵の水(地中熱 WG)主催で2013年11月30日(土)、松本市寿小赤の「地中熱利用とウッドボイラー」の実証施設にて見学会を開催。見学施設の一つが、地下水利用の送風機。もう一つは、汲み上げた地下水をウッドボイラーで湧かし、不凍液を温めて床暖房に回す装置。興味深いシステムの説明に参加者は興味津々でした。(詳しくはホームページのレポートをご覧ください)



●2014年2月、ロケットストーブ作りのワークショップ開催(詳しくは内面をご覧ください)

●共催イベント：ミニ・ソーラー発電機ワークショップ開催

非電化工房松本支部主催、エネットまつもと共催イベント「ミニ・ソーラー発電ワークショップ」を、2014年2月に安曇野市内の会場で各回2回・4日間にわたって開催しました。延べ人数では100名近い市民が参加。ソーラー発電の仕組みや、家庭用の移動式ソーラー発電機の基本的知識を学びました。電気を身近に感じ楽しく暮らす非電化の考えと共に、各人のライフスタイルにあったミニ・ソーラー発電機の構成を思い描き出すワークショップでした。



自然エネルギーネットまつもと通信

2014年3月31日発行 第4号

地域の資源を
 地域で利用する。
 昔の日本人が当たり前に行っていた仕組みを
 もう一度つくりたい。

ビジネスモデルをつくりたい。

ドイツの自然エネルギー企業の日本法人と協業しながら、松本市安曇に「さとやまエネルギー株式会社」を設立。安曇地区と奈川地区をスタートに太陽光と小水力で電気、太陽熱やバイオマスで熱エネルギーを得て、省エネルギー設備と組み合わせ、地域の資源を地域で利用し、地域でお金が循環し仕事生まれるビジネスモデルづくりに取り組んでいる前田さん。
 「人のつながり」と、地域を変えようとする「意識の浸透」が一番大事と感じ、そうした環境を整えていく手段として、◎薪の供給組合づくり、◎自然エネルギーを身近に感じて理解してもらう活動・勉強会の実施、◎昔からのものづくりを教える学校活動、◎自然資源をビジネスに結びつけるエコツーリズムなども構想する。

3・11が大きな転機に。
 「小学校高学年のころ、家族で環境問題のテレビ番組を見ていて、熱帯雨林の破壊や温暖化の悪影響を知り、子どもながらに強い憤りを感じた」という。それ以来、環境問題に関心をもち続け、大学はエネルギーに携わる理学部化学科へ。大学院ではバイオディーゼルの研究に没頭。



エネルギープラントの開発・建設企業に就職し、プラント建設でサウジアラビアに1年間赴任。環境と地域社会を破壊しながらお金を生み出す仕事と葛藤し、会社に自然エネルギー推進を提案するが会社の方向性を変えることはできず、「この仕事は本当にやりたいことではない」という思いが膨らみ始めていたとき、3・11東日本大震災が起きた。

「母方の親戚が福島原発避難区域に大勢いましたし、自分が働いていた会社は福島の原発建設にも携わっていました」。
 これを機に、前田さんは自然エネルギーの技術調査を本格的に始める。「ヨーロッパでは自然エネルギーが伸び、投資も石油や原発より大きい。特に地方都市では唯一の成長産業とわかったんです」。あるセミナーで知り合ったドイツ企業の社長と「地域に根付いた自然エネルギービジネスを目指す」で意気投合。2013年秋、この企業と協業を開始。結婚もして松本市安曇と東京を毎週往復する生活を始めた。
 松本市安曇に借りた古民家を自らの手で活動拠点に改装中だ。ここから生まれる人のつながりがどんな実を結ぶか。目が離せない。

前田 仁さん
 Hitoshi Maeda
 1979年、松本市安曇(旧安曇村)生まれ。自然豊かな安曇村で少年時代を過ごす。松本市内の高校を経て、首都大学東京の理学部へ。その後、東京大学農学部大学院に進む。卒業後はエネルギープラント建設会社に8年勤務後、現在はドイツの自然エネルギー企業のPN(パワー)日本株式会社と協業しながら、地元安曇に「さとやまエネルギー株式会社」を設立。東京、長野そして全国を駆け回る日々。

想いや情熱をストレートに行動に移す前田さん。人間エネルギーの大きな、まさに action な人です。



未来の子どもたちから「借りている地球や地域」を、良いかたちで返すため、自然豊かなこの地らしいエネルギーの地産地消をめざして-

地域にあるものを活かすくらし

ワーキンググループの活動トピックス

目からウロコ！な内容を毎月1回、松本市内で開催している「学習会」は、どなたでも自由に無料で参加できるアットホームな会です。ぜひ一度、見に来てみませんか。

会場は「松本市市民活動サポートセンターの会議室」です。
(開催時間は通常 19:00~20:30)

気軽に、直接会場にお越しください。



昨年「持続可能な社会」について学んでいます。

2013年度は「持続可能な社会を考える」および「自然エネルギーの負の側面」について関連するテーマを取り上げてきました。

- 2013年**
- 4月**
①「信州 F・Power プロジェクト (塩尻のバイオマス発電所)」を知ろう
- 5月**
①長野県環境エネルギー戦略概要について
②県政タウンミーティング(5/10開催)の報告
- 6月**
①「信州 F・Power プロジェクト (塩尻のバイオマス発電所)」の報告書紹介
- 7月**
①「エコロジカルフットプリント」
②「世界のエコタウン」江戸から学ぶ

- 8月**
①「環境問題からみたヨーロッパの現状と課題：ドイツ・フランスの視察報告」
②「既存砂防ダムへのスリット化改修・その意味すること」
- 9月**
①「生態循環・農業循環・都市と環境循環」
②「太陽電池の廃棄物問題」
- 10月**
持続可能な社会を考える「エネルギー政策を考える」
- 11月**
持続可能な社会を考える「廃棄物と3R (リデュース・リユース・リサイクル)」
- 12月**
「省エネ・エコ事例 大特集」参加者が日頃取り組んでいる省エネ・節電・エコの事例をエコ商品持込で紹介

- 2014年**
- 1月**
①「水資源問題と地下水問題」
②「スゴ谷治山ダム工事」河川域の環境破壊と治山ダムを考える
*おまけのDVD鑑賞会「住宅用ロケットストーブの作り方」(農文協)
- 2月**
「オーストリア・ドイツにおける再生可

能エネルギーの現状と課題、そして松本市へのヒント」(ヨーロッパ・自然エネルギーと林業視察の報告)

3月
「太陽光発電を長く安心して使うために、知っておきたいこと」
~メンテナンスフリーって本当? 予期せぬトラブル事例と対策~



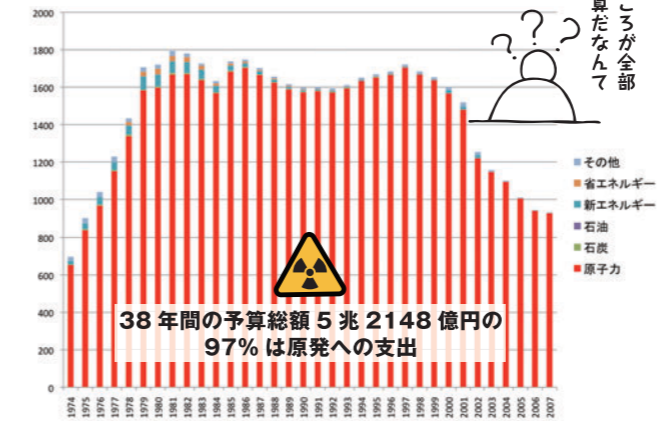
http://www.enet-matsumoto.net 自然エネルギーネットまつもと 検索



スマホでアクセス!

- 次回日程とテーマはホームページの最新情報でご確認ください。
- 過去の学習会の様子はホームページのレポートをご覧ください。

目からウロコ! 知ってますか。 vol.2 原発のなぜ? なに?



原発は安全で安い電源だとずっといわれてきました。多くの人はそれを信じ、あるいはそんなことも意識せずにふんだんに電気を使ってきました。

3.11で、原発は危険なものだとわかりました。では、安いということが指摘されています。今まで政府や電力会社が提示してきた原発のコストには、本来は算入すべきなのに入れてないものがあつたり、実態に合わない低すぎる金額が使われていることがわかっています。

さらに原発は財政支出の恩恵をふんだんに受けています。莫大な税金を注ぎこんでは、50基を超える原

発を作り、稼動してきました。ではその内容を確認してみましょう。

エネルギー関連の予算に一般会計と特別会計があります。図は1970~2007年の一般会計エネルギー対策費の推移を示したものです。おや? 予算のほとんどを原発に使っていますね。この38年間の予算総額5兆2148億円の97%は原発への支出でした。特別会計も、1974~2007年度の総額10兆5380億円の3分の2が原発用途です。

こんな財政支援を行い、それをコストに組み入れることなく原発は安いという論法に、みなさんは納得できますか?
(文: 平島安人)

Person 信州大学のインターンシップ制度により2014年度も、経済学部の学生さんをインターンとして受け入れる予定です。

昨年、最初のインターンとして共に活動した経済学部の「溝口 依理子」さんからコメントをもらいました。



様々な考え方に触れることができました。

私は、去年自然エネルギーネットまつもとの活動にインターンシップとしてお世話になりました。自然エネルギーに興味はあったものの全く知識はなかった私に、エネットまつもとの皆様が丁寧に説明して下さったので、会議やイベント、学習会等の様々な活動に参加することができました。

環境問題やエネルギー問題は、報道等でもよく話題にされる問題なのですが、一方で自分には関係のない問題だと考えている部分もあると思います。私はこのインターンに参加して、どんなことを実践していけばいいのかということを考えるようになりました。

エネットまつもとのには、幅広い年

齢、職業の方々がいっぱいます。様々な考え方に触れる中で、エネルギーはもちろんですが、他にも多くのこと勉強し、楽しく活動することができていると思います。信州大学経済学部4年 溝口依理子

Work ロケットストーブづくりのワークショップを開催。定期的な開催を予定しています。

第1回目のペール缶を使った調理コンロ用ロケットストーブづくりに9名が挑戦!



今回のペール缶ロケットストーブづくりを少しだけご紹介します。

2014年2月2日(日)松本市島立のマドリエ松本中央さんの加工場をお借りして、「自然エネルギーネットまつもと」と「NPO法人 森倶楽部21」との共催事業として開催。

参加者はロケットストーブに興味津々の9名。速くは下伊那から見えた方もいらっしゃいました。

必要な材料と道具、さらに煙突穴の型紙は講師でエネットまつもとの平島代表が事前に準備していたので、みなさん初めてのロケットストーブづくりでしたが短時間で完成することができました。

(材料代は1台4,000円)

完成後は、会員さんがロケットストーブで調理してくれた特製玄米塩麴にんにくスープとそば粉ホットケーキをみんなで美味しくいただきました。

※詳しくはホームページレポートで



※ゴトク、フード、木製台はオプション



①事前に空けておいた底の穴より断熱材(バーライト)を入れ、アルミテープなどで穴を閉じて完成!(上部の手提げ金具もネジで後付け)



②上下のペール缶をネジで連結



③煙突を入れる部分に型紙を貼って、ハサミを入れるための穴を空ける



④金切りハサミで型紙の内側の円を切り取る



⑤さらに、折り返し部分を切り込む



⑥側面も同様に煙突用の穴を空ける



⑦煙突を穴を調整しながら押し込む



⑧折り返し部分を使ってステンレスバンドで固定

※手などを傷つけやすい作業なので、手袋の着用が必要です。
★第2回目のワークショップも予定しています。ご期待ください。
★「ペール缶ロケットストーブ」の詳しい作り方は、エネットまつもとのホームページ「2013.9/15 新着情報」でご覧いただけます。